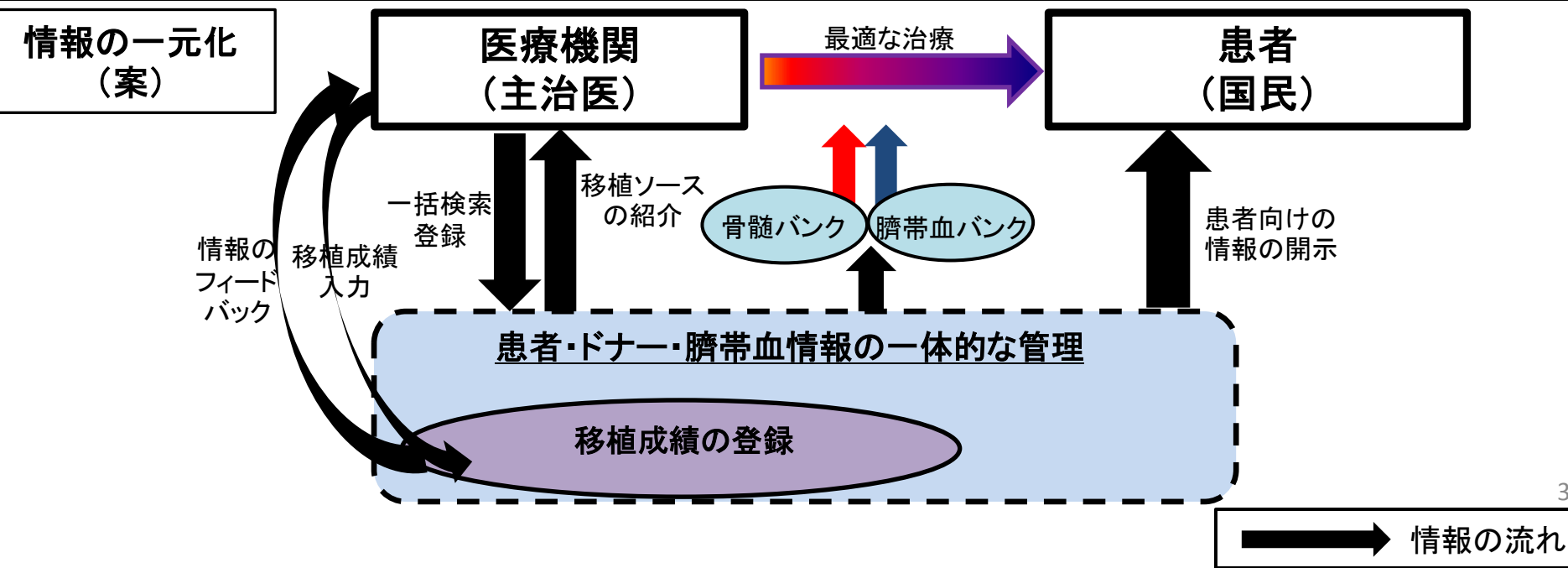
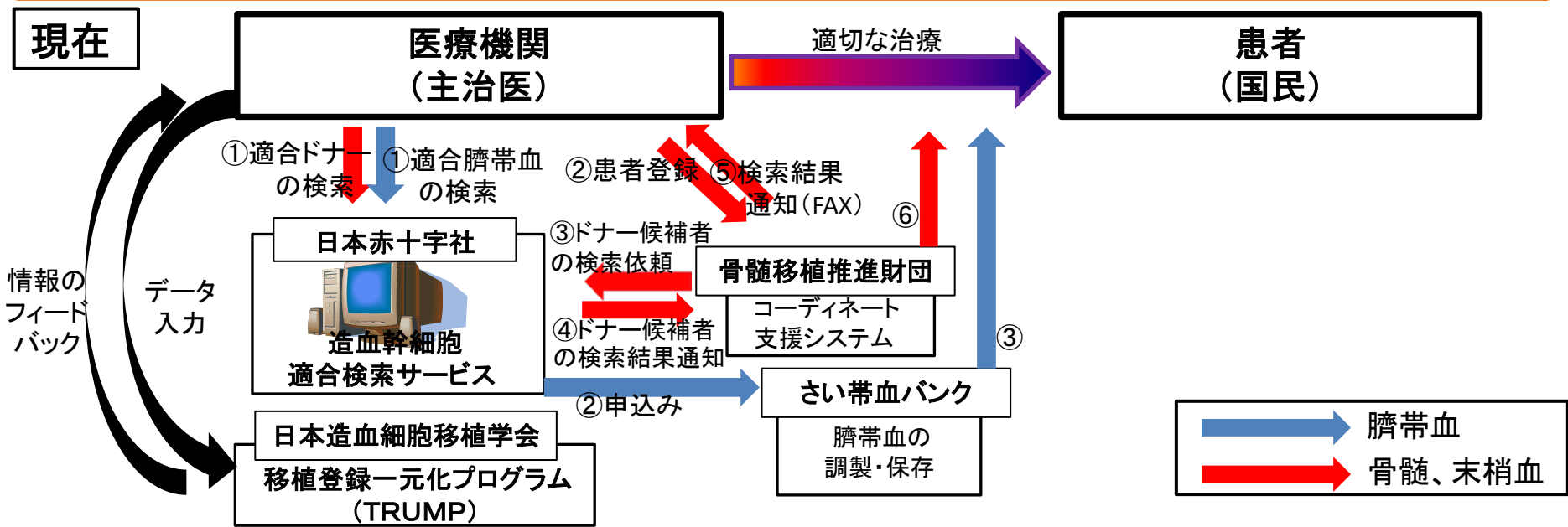


情報の一体的提供について

造血幹細胞移植委員会での各委員の御意見(抜粋)

- ・ 的確な情報が一本化されて、患者の手元に分かりやすく届くようにしてほしい。
(第35回:長谷川参考人、野村参考人)
- ・ 患者に対して、的確な情報を、タイムリーに、質を担保しつつ提供してほしい。
(第35回:岡本委員)
- ・ 一般の方に病気を知ってもらうための情報提供が必要。(第35回:長谷川参考人)
- ・ 情報は患者向けと医療者向けと両方が必要。(第35回:小澤委員長)
- ・ 自分たちの受けた治療の結果が、その施設の中だけではなく、データとして今後の医療に生かしてほしい。(第36回:鎌田委員)
- ・ ドナー及び移植のデータについては、質の高いデータを持つとともに、患者相談などに使えるデータの共有を考えている。(第36回:岡本委員)
- ・ 情報を、患者がアクセスしやすく、理解しやすい形で提供してほしい。
(第37回:鎌田委員)
- ・ データが集約されて、一元化されることの意義は大きい。(第37回:鎌田委員)
- ・ 臍帯血バンクについても最終的に臍帯血移植をした人がどうだったかをつかむため、患者登録ができる体制にすべき。(第38回:鎌田委員)

造血幹細胞移植の実施体制



造血幹細胞移植一元化登録

移植登録は日本造血細胞移植学会を中心に一元化されてきた。

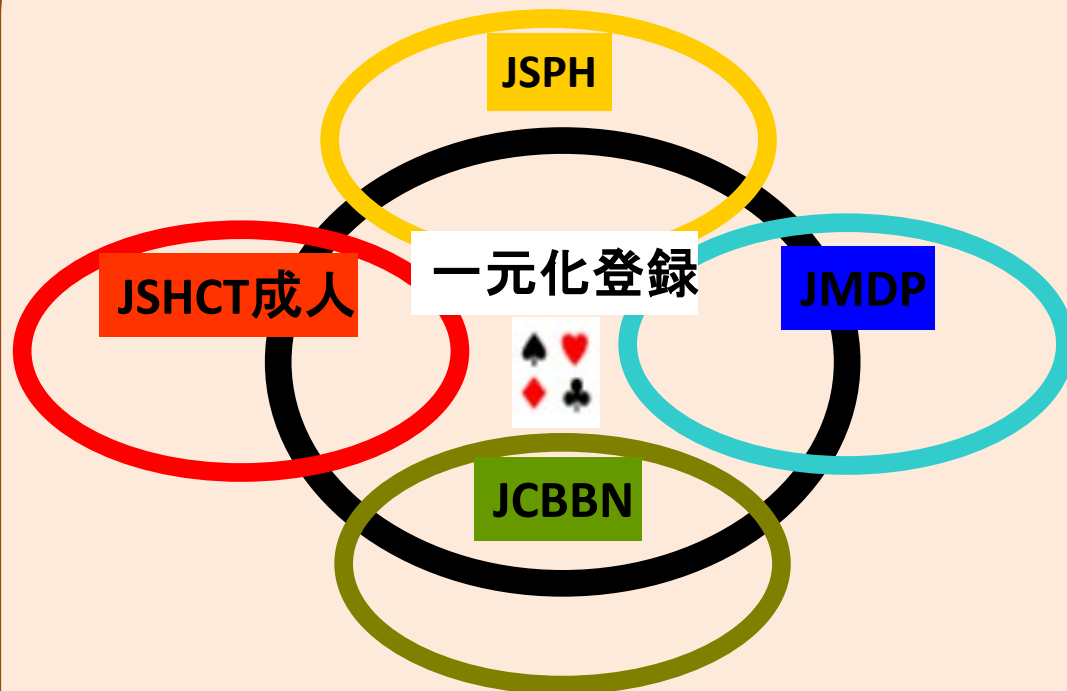
日本小児血液学会
(JSPH)
1984

日本造血細胞移植学会
(JSHCT)
1993

骨髓移植推進財団
(JMDP)
1993

日本さい帯血バンク
ネットワーク(JCBBN)
1997

2005年まで



移植登録一元化プログラム
(TRUMP)

2006年から

日本造血細胞移植学会全国調査

全国調査報告書はホームページ上で公開されており、臨床現場で活用されている。

日本造血細胞移植学会ホームページ

全国調査報告書の主な内容

- 移植件数
施設別移植件数を公開
- 生存解析
 - ・疾患ごと、年齢別、移植時病期別などの生存曲線
 - ・これまでの日本全体の成績

日本造血細胞移植学会

JSHCT The Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

医療関係の方 会員の方 一般の方 English

トップ 学会組織 学会総会 ガイドライン ニュースレター 全国調査報告書 連絡先 リンク

造血幹細胞は命のみなもと

お知らせ >> 以前のお知らせ

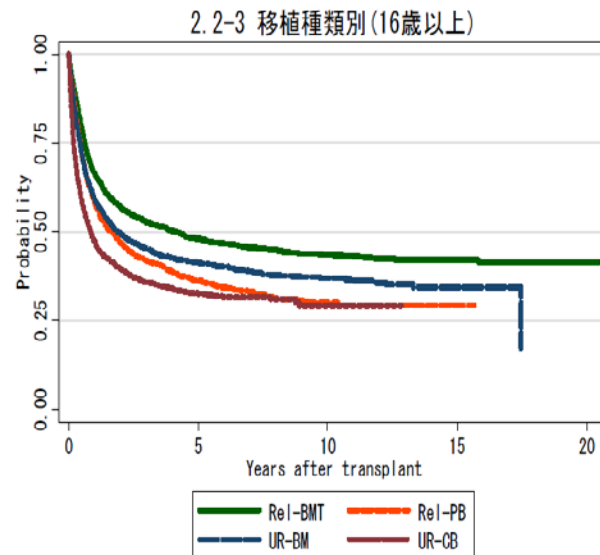
- 2011/12/28 「看護部会教育セミナー(第34回日本造血細胞移植学会総会)のご案内」 「看護部会・移植看護グループミーティング(第34回日本造血細胞移植学会総会)のご案内」 **New**
- 2011/11/22 ドナー有害事象報告 **New**
- 2011/11/09 日本造血細胞移植学会誌ウェブサイト「バナー」募集 **New**
- 2011/10/19 平成23年度 CTC研修会開催案内(更新) **New**

東日本大震災・福島原発事故に関するお知らせ

第34回 日本造血細胞移植学会総会

会期：2012年2月24日(金) 25日(土)

会場：大阪国際会議場



造血幹細胞移植患者・ドナー登録支援事業について(平成25年度予算案)

個人情報の保護に留意しながら、関係学会や医師だけではなく、患者相談を行う団体や国民に対しても、最適な治療を受けるのに役立つ情報をフィードバックすることを目的とする。

現在の造血細胞移植 一元化登録研究システム

全国の移植施設

・骨髄移植推進財団
・日本さい帯血バンクネットワーク

・患者情報の登録
※プライバシーに配慮

・ドナー情報の登録
※プライバシーに配慮

造血細胞移植 一元化登録
(日本造血細胞移植学会)

・関係学会

・骨髄移植推進財団
・日本さい帯血バンク
ネットワーク 等

造血幹細胞移植患者・ドナー登録事業支援

全国の移植施設

・骨髄移植推進財団
・日本さい帯血バンクネットワーク 等

・患者情報の登録
※プライバシーに配慮

・ドナー情報の登録
※プライバシーに配慮

第三者機関

・データのクリーニング
・データの一次解析
・データセットの提供

・約65,000の移植症例を蓄積
・年間約3,000症例の登録
※自家・血縁・非血縁すべての症例

研究促進→治療成績向上

・関係学会
・研究機関

医療機関

患者相談団体
(NPO等)

・日本赤十字社
・骨髄移植推進財団
・日本さい帯血バンク
ネットワーク 等

国際共同
研究等

国際機関等

HP等を通じて

情報提供

国民

がん情報サービスの例①

一般向けに詳細なデータが公開されている。

独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター

がん情報サービス ganjoho.jp

一般の方へ

医療関係者の方へ

各種がんの解説

予防と検診

診断・治療方法

がんにつき合う

TOP > 診断・治療方法 > [がんの治療方法](#) > 造血幹細胞移植

造血幹細胞移植

- 造血幹細胞とは
- 造血幹細胞移植の対象となる病気
- 造血幹細胞移植の種類
- 造血幹細胞移植の方法
- 造血幹細胞の採取方法
- 造血幹細胞移植の各方法の比較
- 造血幹細胞移植の副作用:移植片対宿主病
- 造血幹細胞移植の副作用:免疫抑制
- 造血幹細胞移植の治療成績
- 造血幹細胞移植を受けるには
- 同種造血幹細胞移植:ミニ移植
- 同種造血幹細胞移植後のドナーリンパ球輸注

造血幹細胞移植の治療成績:[がん情報サービス]

造血幹細胞移植の治療成績

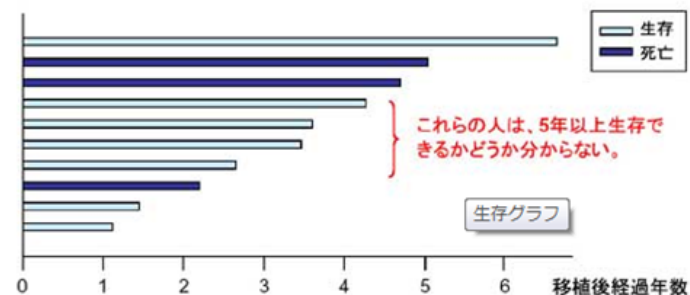
更新日:2006年10月01日 掲載日:2006年10月01日

1. 移植成績の表示方法
2. 移植成績の実際
3. 移植成績を見る場合の注意事項
4. 参考文献

1. 移植成績の表示方法

1)なぜ生存曲線？

造血細胞移植に限らず、医学関係の治療成績は、生存曲線で示されることが多いです。これはなぜでしょうか？ 例えば10人に移植した結果、7人が生存している場合、移植治療の成績を単純に“7/10 = 70%”と示すことが可能です。しかしながら、この方法では大きな誤りが生じることがあります。

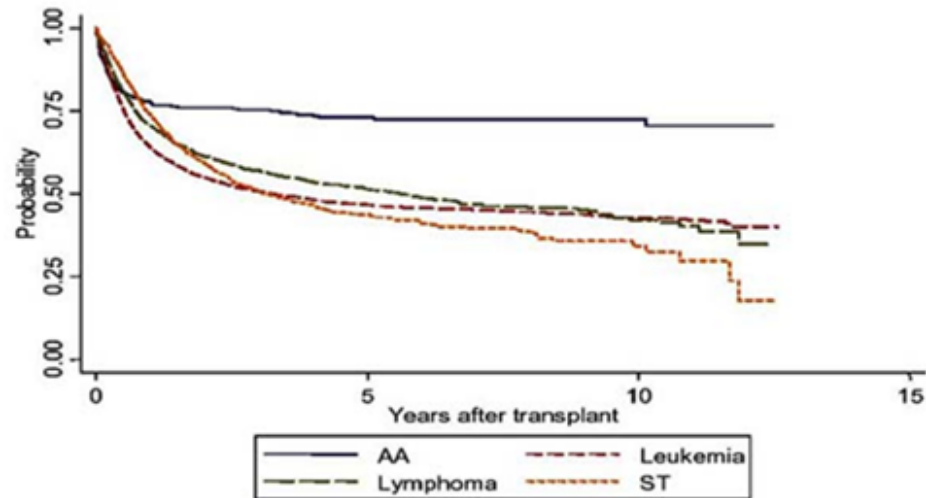


がん情報サービスの例②

詳細な治療成績のデータが公開されている。

がん 造血幹細胞移植の治療成績：[がん情報サービス]

以下は、白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血、固形がんと分けた場合の生存曲線です。
Leukemiaとあるのが白血病、Lymphomaが悪性リンパ腫、AA(Aplastic Anemia)が再生不良性貧血、ST(Solid Tumor)が固形がんです。



生存曲線

対象病種	症例数	移植後経過年数	1年	3年	5年	10年	①	②	③	
① AA	448	生存率	0.7773	0.7534	0.7304	0.7252	検定			
		95%信頼区間	0.7351-0.8135	0.7090-0.7919	0.6839-0.7712	0.6778-0.7629				
		観察症例数	321	222	145	89				
② Leukemia	8182	生存率	0.6398	0.5075	0.4929	0.4291	検定	<0.0001		
		95%信頼区間	0.6290-0.6503	0.4958-0.5191	0.4547-0.4790	0.4111-0.4440				
		観察症例数	4675	2615	1578	232				
③ Lymphoma	3615	生存率	0.5954	0.5092	0.5146	0.4219	検定	<0.0001	<0.0001	
		95%信頼区間	0.6807-0.7204	0.5513-0.5867	0.4951-0.5338	0.3864-0.4550				
		観察症例数	2221	1186	590	65				
④ ST	1200	生存率	0.7382	0.5071	0.4356	0.3428	検定	<0.0001	0.2226	0.0249
		95%信頼区間	0.7116-0.7627	0.4769-0.5373	0.4031-0.4677	0.2927-0.3935				
		観察症例数	804	416	221	21				

造血幹細胞移植学会ホームページ(<http://www.jshct.com/>)

実際には、同じ白血病でも急性骨髄性白血病(AML)、急性リンパ性白血病(ALL)、成人T細胞性白血病(ATL)、慢性骨髄性白血病(CML)が含まれますし、骨髄異形成症候群(MDS)も白血病に含めて集計されます。それぞれに分けると以下ようになります。これらに分類されない白血病もあります。

情報の一体的提供について

- 病気の内容、治療方法、移植成績、医療機関など患者や国民が知りたい情報を手軽に入手できるポータルサイトのようなものが必要ではないか。また、そこで提供する情報については、患者相談窓口における相談内容を踏まえることとしてはどうか。
- 移植成績については患者や国民向けのものだけでなく、さらに詳細な情報を医療機関、研究機関、患者相談窓口を設けている団体などに提供することとしてはどうか。また、その情報の正確性を担保するために、リスクの度合いなどを調整した上で提供することとしてはどうか。
- 患者への治療の状況を把握し、主治医やバンクなどが適切に対応できるよう、骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植を問わず、移植に先立って患者登録を行う仕組みとしてはどうか。